

2019年度 久留米信愛中学校・高等学校 学校自己評価表

2019年度、本校は以下のような目標・方針・計画をもとに、教育活動をおこないます。

※評価はA・B・C・Dの4段階で行います。

A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

教育目標	カトリック精神を基盤とする教育理念の上に立ち、生徒の全人格的陶冶を目指す。 生徒一人ひとりが主体性を確立し、おのおのの可能性を最大限に開発して、絶えず自分を越えて学ぶ姿勢を生涯持ち続けることのできる自己形成力を養う。 人間社会の多様性を理解し、とりわけ弱い立場に置かれた人を大切にす豊かな心を持ち、社会に秩序と平和をもたらす慈愛、信頼、寛容、感謝、協力の精神を育む。	総合評価
年度目標	寄り添う指導の徹底を図り、その延長線上に自己規制及び自己形成の力を養う。多様性の受容と協働性の養成のための国際理解教育のさらなる充実を図る。ICTの積極的な活用を含め、対話的な授業と課題解決型学習への取り組みを深化させる。	B

No. 1

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		
			中間	年度末	年間
宗教教育	○キリスト教カトリック精神に基づく信愛教育の推進	朝終礼での祈りや授業前の黙想を通して、美しい姿勢を保つこと、沈黙のうちに自己と向き合うことを習慣化させる。	A	A	A
生徒指導	○基本的生活習慣と規範意識の確立 ○主体性と協働性の伸長 ○校内美化の推進	学年・教科と連携し、登下校時、授業の開始・終了の元気な挨拶を指導する。	B	B	B
		生徒会活動をはじめ、生徒が企画運営する教育活動が、生徒の主体性や統率力、協働性を育む場になるよう、支援を行う。	A	A	
		清掃監督者と連携を取り、エプロン着用の徹底・無言清掃・丁寧な清掃を呼びかけて指導を行う。	B	B	
教科指導	○自律した学習態度の定着 ○授業の満足度の向上と授業改善 ○正確で柔軟な業務遂行 ○ICT教育の企画・運営・推進	学びの習慣化のための「ステラ手帳」の活用指導の徹底	B	A	B
		主体的、対話的に学びを深めさせ、課題解決型学習促進に向けた授業づくりのための助言と運営	B	B	
		次期学習指導要領・新テスト制度の情報の共有	B	B	
		ICTを活用した授業支援および校務支援のための環境整備	B	A	
進路指導	○キャリア教育と受験指導の徹底 ○教職員の進路指導力の向上 ○進路実現に向けての+αの学習や校外活動参加の促進 ○生徒・保護者に対する進路情報の積極的提供	2019年度大学入試の情報収集と分析による、高校57期生の進路実現のための徹底指導	B	B	B
		最新の大学の教育内容や入試制度などの情報収集と、先生方や各学年への効果的な情報発信	B	B	
		受験に向けて生徒の学習意欲と実力を向上させる効果的な課外や特別講座の企画立案	B	A	
		先生方や生徒・保護者が活用しやすい「進路のてびき」「合格のてびき」の作成とガイダンスの実施	B	B	
教育支援・保健衛生	○担任・学年との連携ある教育支援活動の実施 ○相談活動の充実	新年度に申し送りができるように定期的な情報交換を確実に進行。	B	A	A
		学校医及びスクールカウンセラーによる定期的な相談活動を実施し、相談体制を充実させる。	B	A	
国際教育	○グローバル人材育成のための教科横断型プログラムの企画運営 ○海外難関大学進学を視野に入れた一貫教育の推進 ○国際交流プログラムの企画運営とその関連活動の支援 ○海外留学・海外大学進学への支援	姉妹校を含む各種海外研修の機会をとらえ、各国の事情を踏まえた課題研究の指導計画を検討する。	B	B	B
		英語科と連携し、6カ年を通じて実践的英語学習の動機付けと錬成のための研修を企画する。	B	B	
		教務部（ICT教育関連）と連携し、年間を通じ海外姉妹校生徒とのネット等を活用した交流機会を創設・実施し、交流の深化を図る。	B	B	
		「英語圏への早期海外留学プログラム」を推進し、効果を検証する。	A	A	
研修	○授業のクオリティ向上 ○教員の質の向上のための各種研修会の企画と運営	ICT教育充実に向けて教員のスキル向上のための研究授業・研修の企画運営	A	B	B
		新しい価値観に基づいた教育に対応するための研修検討	B	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		
			中間	年度末	年間
家庭との連携	○後援会役員・評議員との事務連絡・調整 ○保護者との連携強化 ○卒業生の保護者との支援体制の構築	後援会役員・評議員との意見交換を行い、信頼される学校づくりに反映させる。	A	A	A
		父親の集まり「信愛父親の会 Shin-ai Dads' Club」を企画・運営し、父親と学校とのつながりや父親同士のネットワークを構築する。	A	A	
		歴代後援会役員「百合の会」、卒業生やその保護者の支援を得て、学校の活性化を一層促進する。	B	B	
同窓会との連携	○卒業生情報の収集と有効な活用	卒業生による講話などを通して、先輩の活躍を知ることで、生徒の進路意識を高めることに活用する。	B	C	B
中学1年	○基本的な生活習慣と学習習慣の確立 ○自己表現とコミュニケーション能力の育成 ○深い学びに向かう姿勢の支援 ○保護者との連携	「ステラ手帳」を活用し、規則正しい生活のリズムと家庭学習の習慣の定着を図る。	B	A	A
		「アサカツ」の時間を活用し、聞く・読む・話す・聞くの4技能をバランスよく強化する。	B	B	
		「探究活動リリウム」を通して、主体的に継続的に学び続ける面白さに目覚めさせる。	A	A	
		学校及び学年・クラスの状況や生徒の学校生活の様子を保護者に伝えるため、「学級だより」を毎月1回発行する。	A	A	
中学2年	○基本的な生活習慣と家庭学習習慣の確立を深化させる ○自己表現力とコミュニケーション能力を強化する ○共学化一期生としての自覚と誇りを持たせる	「すらら」の継続的・発展的利用と「自学ノート」の計画的運用により、自律学習への道筋を整える。	A	A	A
		探究活動リリウムなどを通して、自己の在り方を考え、互いに認め合うコミュニケーション能力を高める。	A	A	
		カトリックミッションである本校の伝統を重んじ、さまざまな学校生活の場面で「自己を他者のために活かす心」を育てる。	B	B	
中学3年	○生活態度改善・学習習慣強化 ○適正な進路指導 ○社会性・言語コミュニケーション力・メタ認知力の育成 ○他部署・保護者との連携	早朝・放課後の活動を含めた学習・生活指導（時間厳守・補習や自学ノート作成を活用した学習指導・静粛指導）	B	B	B
		最新進路情報の提供と6ヵ年一貫の魅力を伝える進路指導	B	A	
		日常生活における言語指導の徹底（公の場での話し方、クラス内の議論、「学級日誌」の記入法指導等）	B	B	
		目標を実現するための即応・連携体制づくり	B	A	
高校1年	○自立した生活習慣の確立 ○自学の姿勢の育成 ○進路意識の高揚	学習時間を軸とした3点固定を徹底させるためステラ手帳を活用させ、担任や副担任で定期的に点検する。	B	B	B
		漢字・英単語の小テスト、スタディサプリなどを有効活用し、基礎学力の定着を図る	B	A	
		新大学入試への準備のためGTECやアサカツなどで「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能を鍛えていく。	B	B	
高校2年	○基本的な学習習慣の確立 ○基本的な生活習慣の確立 ○進路意識の高揚 ○グローバルな視野を持ち、様々な立場での役割を果たすことができる力の育成 ○保護者との連携	スタディサプリを全員受講することで、基礎から応用まで自ら学ぶよう教科担当者との連携しながら運用する。	B	B	A
		朝礼・終礼の挨拶を徹底する。	B	A	
		ものの見方や考え方、将来の可能性が広がるような進路学習の機会を設け、校外活動にも積極的参加を促す。	B	A	
		韓国やカナダの高校生との交流会を通して、それぞれが成長できるよう指導する。	A	A	
高校3年	○受験生としての自覚を持たせ、進路実現を目指す ○自己を他者に活かす ○生徒・保護者との協力体制	生徒が活躍する姿や取り組みを「学年だより」で伝え、保護者の理解を促す。	A	A	A
		学校の授業を中心に捉え、また学習の効率化を図らせるとともに、最後まで学び続ける精神力を養う。	B	B	
		日常の学習・活動の場を通じ、「自分が他者のためにできること」を意識し、実践する集団を育成する。	A	B	
		保護者懇談会や進路講演会への出席を促し、情報交換を重ね、進路実現に向けて協力体制を強固なものにする。	A	A	